

題材 「ボディパーカッションを楽しもう！」 全1時間中の第1時

(1) 学習のねらい

ボディパーカッションに初めて出会った子どもたちが、実習生のパフォーマンスを見ることを通して、ボディパーカッションに親しみをもち、自分の手や足など体の一部が楽器になるということに気づき、叩く位置や叩く強さによって音の大きさや種類が異なることの面白さを味わいながら、自分たちの好きな順にボディパーカッションを組み合わせて、リズムによって演奏することができる。

(2) 本時の学習材

実習生のパフォーマンス

- 子どもたちは、ボディパーカッションの音を聞く中で、何の音なのか気になり始めるだろう。そのような意識を捉えたところで、本学習材を提示する。
- 本学習材は「実習生のパフォーマンス」である。実習生のパフォーマンスを見た子どもたちは、自分たちもボディパーカッションをやってみたいと思うようになるだろう。さらに、仲間同士でボディパーカッションを組み合わせることを通して、動きや音を揃えることの楽しさに期待を膨らませていくだろう。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1.ボディパーカッションの音声だけを聞き、その後、ボディパーカッションの映像を見る。	- 拍手は聞こえるね - 他は何の音だろう？ - 手拍子以外の音は分からないや。 - この音は胸を叩く音だったんだ！ - 色々な音が出せるんだ！ - 私もやってみたい！	7	- おもむろにボディパーカッションの音声だけを聞かせて、何の音か問う。 - 子どもが音を気になり始めたところで、動画を見せる。
	【学習問題】ボディパーカッションって なんだろう？			【学習材】 実習生のパフォーマンス
展開	2.実習生のパフォーマンスを見た後に、ボディパーカッションの組み合わせを考える。	- 先生たちのパフォーマンスすごい。 - 僕もやってみたいな。 - 僕は、ここにこのカードを入れたらいいと思う。 - みんなで揃えたらきれいだよ。 - 練習してみよう。 - 皆に発表するから、すごいやつが良いよね。 - 早くみんなに発表したいな！	18	- 動きとリズムを説明する。 16ビート、95テンポで手拍子をしながら3回ほどリズムを確認する。 - ボディパーカッションの例を提示して、ボディパーカッションをグループごとに並べかえるように促す。 - 話し合いの間は、基準となるリズムを繰り返し流す。 - 子どもたちにリズムを感じながら組み合わせを考えてもらうため。
終末	3.クラス全体に発表する。	〇〇グループは、あそこの部分で、あのカードを使ったんだね。 - 私たちのグループは、こんな風を選んだよ。 - 上手くできた！ - あのグループのボディパーカッションがスゴかった。 - 体を使うだけで、色々な音が出るんだね。面白いな。 - 知っている歌を演奏してみたい。	20	- 各グループで話し合ったボディパーカッションをクラス全体に発表するように促す。 - 時間があれば「信濃の国」に合わせて、全員でパフォーマンスする。
				【評価】子どもたちが自分たちの好きな順にボディパーカッションを組み合わせて、楽しみながら演奏できているか、活動姿勢や発表で評価する。